



7回表 八学光星の死満塁、代打小笠原が右前に同点打を放つ

小笠原 意地の同点打

代打の小笠原が意地の一打を見せた。七回の死満塁の好機で右前へ同点適時打を放ち、試合を振り出しに戻した。

昨秋の県大会、東北大会ともにスタメンで出場していたが、この日はベンチスタート。「すごく悔しかったが、試合に出る準備はできていた。打つてやる」という気持ちでいっぱいだった。

「次、行こう」と仲井監督から声をかけられ打席へ。一ボール、二ボール、三ボールと球が狙っていたチェンジアップを力強く返す。右前に運んだ。

「守備の間を、抜けた瞬間は観客も沸き、すごく気持ち良かった」と笑顔を見せた。

八戸市出身、甲子園を目指せる近場の高校で、自分のスキルを試したいと八学光星の門をたたいた。昨秋から食事やウェアトレーニングで体重を80kg増やし、パワーアップを図っている。「どんなボールでも発で仕留められることが持ち味。次戦こそはスタメンで出たい」と闘志を燃やした。（棟方好華）



「いいぞ」「よくやった」 熱い応援

甲子園球場の一塁側スタンドには、八学光星の野球部員や生徒ら約160人と選手家族が詰めかけ熱い声援を送った。2度もリードを許しながら追い付く粘り強さにボ

増池「夏は打席に」

けがでチーム下支え

スタンドで応援する八学光星野球部員の中心となつて太鼓をたたき続け、ナインを鼓舞したのが増池人（かいと）。3年、大阪府出身。

増池（手前）の太鼓に合わせ、ナインに熱い声援を送る八学光星の応援スタンド。

ルティンが昇。勝利を以て息子のプレーを固守つた。七回の同点打には、「いいぞ」「よくやった」とナインをたたえる声が続いた。

七回、代打として右前へ同点適時打を放った小笠原由宇（ゆず）、八戸市出身の父慶一さん（66）は家族や親戚約10人とともに駆けつけ、スタンド

今年1月、秦振りの最中に腰から異音が聞こえた。「休むとアキルでいい」と一週間療養をしながら「我慢し続けたが、耐えきれず病院へ。全治半年の疲労骨折と診断され、俺が弱った」と悔しさを吐き出した。しかし、18日の開幕試合では「光星の強さを発揮してくれ」と願いつつ太鼓をたたいた。激励を押し返した。「次は自分が打席に立ち、バックスクリンへホームランを打ちたい」と夏のスタメン出場へ向け、奮起を誓った。（棟方好華）

幼少期から憧れていた巨人の坂本勇人（光星出身）の母校に入る。経験のないハードな練習についていくのに精いっぱいだった。練習では誰よりも早く出る。この夢に向け努力を続けた。

またベンチ入りの経験はなく、春から背番号をつかみ取るため練習中の